

3歳未満児にふさわしい保育の環境 ～指さしを通じた応答性からの考察～



一般社団法人 京都府保育協会

Ⅰ はじめに

**保育所保育指針・認定こども園教育
保育要領・幼稚園教育要領 の改定(訂)**

3歳未満児への丁寧な保育の重要性

**3歳未満児にふさわしい保育の環境
子どもと保育者間の共感と、
そこに生まれる保育者からの応答性**

II 研究の背景と目的

研究の背景

「身近なものと関わり感性が育つ」

「身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、
感じたことや考えたことを表現する力の基礎を培う」

(保育所保育指針・乳児に関わるねらい及び内容・精神的発達に関する視点)



保育の環境を整えることが望まれる

「子どもはどんな時に指さしをするのか」

「何のために指さしをするのか」



子どもが指さしをして…

- **何を考えて、何を共有したいと願っているのか**
- **思いをどのようにくみ取り、どのように応答することが、子どもの心身の発達によい影響を与えるのか**

研究の目的

人的環境と物的環境から

「子どもが自ら何かに関わろうとする力としての発達を基盤とした**指さし**とそこでの**発話**に対する、**保育者の共感と応答性**」に着目しながら、3歳未満児の発達にとって必要な保育の環境について、明らかにする。

III 研究の方法

1 研究の手続き

**様式を定めて、指さしエピソードを収集
3つのグループに分かれて記録を分析**



- **エピソードをカテゴリー化**
- **エピソードの内容について分析**
- **グループごとのクロスチェック**

2 エピソード収集期間

平成30年4月27日～5月25日

3 対象児

10か月～35か月の園児

(146名)

4 エピソード記録方法

記録項目

記録者名・日時・場所

対象児氏名・月齢

指さしをした対象物

発声や発話の有無

記録した際の前後の様子

保育者の率直な気持ち

指差しエピソード記録		園名	記入者氏名
年月日	時刻	天気	場所
2018.5 ()	:		
子どもの名前		年齢 (月齢)	年 月
指さしの種類	<input type="checkbox"/> 志向の手さし <input type="checkbox"/> 志向の指さし <input type="checkbox"/> 定位の手さし <input type="checkbox"/> 定位の指さし <input type="checkbox"/> 要求の手さし <input type="checkbox"/> 要求の指さし <input type="checkbox"/> 可逆の手さし <input type="checkbox"/> 可逆の指さし <input type="checkbox"/> はっきり分からないがしたような感じ		
指さしの対象 (さしたもの)			
指さしをした時の状況、(場所、保育者とのやり取り、他児とのやり取り、指さしをした子どもと周囲の子どもの状況など)(保育者は「保」子どもはA.B.Cなどと具体的に示す)			
その時の保育者の率直な気持ち、その他何でも			
参考	志向の指さし(相手が指さした方向を見てその先の物を見つける) 定位の指さし(見つけたものに対して目的を定めて指さす) 要求の指さし(自分の欲しい物を指さしで相手に知らせる) 可逆の指さし(「～はどれ?」の問いに応じて、人との関係において答える指さし)		
写真等			

5 収集したエピソード

(1) 研究対象児年齢とエピソード数

(上段:有効数.下段:収集数)

月齢 (ヶ月)	10~11	12~17	18~23	24~35	合計
有効数	6	48	92	76	222
収集数	6	51	92	92	241

(2) 指さしをした場所(8か所)

- ①保育室 ②園庭 ③テラス ④散歩道 ⑤玄関
⑥廊下 ⑦遊戯室 ⑧その他

(3) 指さしをした対象物(10項目)

- ①人 ②自然物 ③食べ物 ④乗り物 ⑤おもちゃと絵本
⑥製作物 ⑦季節や行事関連の物
⑧身の回りの物 ⑨方向 ⑩その他

6 分析の方法

分類のカテゴリーと細目

カテゴリー		細目	指さしの始まり
A	意図の共有	①要求	子どもから 始まった指さし
B1	注意の的の 共有 (子どもから)	②見つける ③興味・関心 ④伝える ⑤確認	
B2	注意の的の 共有(応答)	⑥応答	保育者の言動に 応答した指さし

IV 結果と考察

1 指さしをした場所

月 齢	保育室	園庭	テラス	散歩道	玄関	廊下	遊戯室	その他	合計
10～11 ヶ月	4	1	1	0	0	0	0	0	6
12～17 ヶ月	33	7	1	2	2	1	0	2	48
18～23 ヶ月	33	26	12	18	1	1	1	0	92
24～35 ヶ月	22	40	4	4	3	0	0	3	76
合計	92	74	18	24	6	2	1	5	222

図1 指さしをした場所

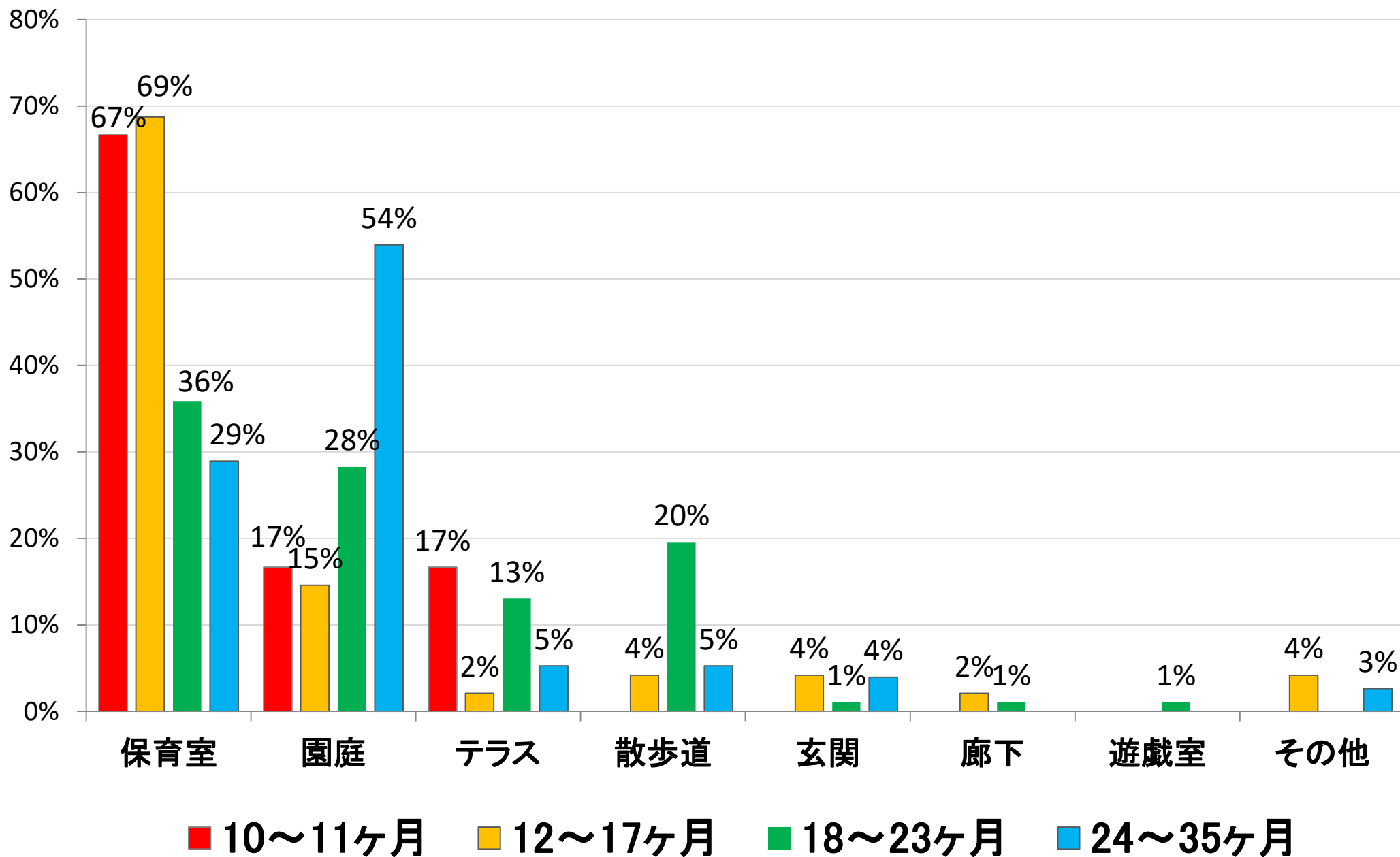


図2 指さしをした対象物 (複数カウントあり)

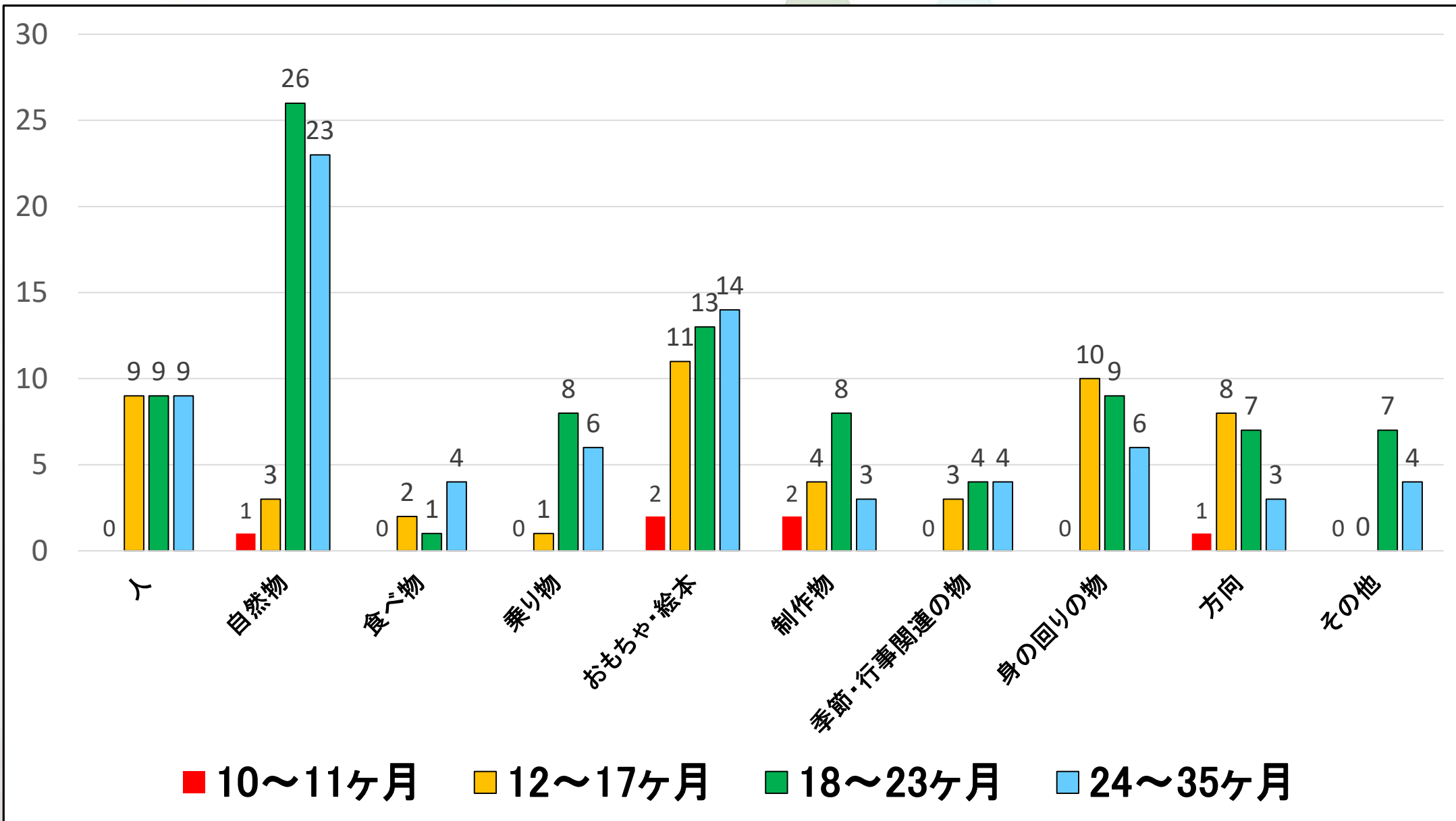
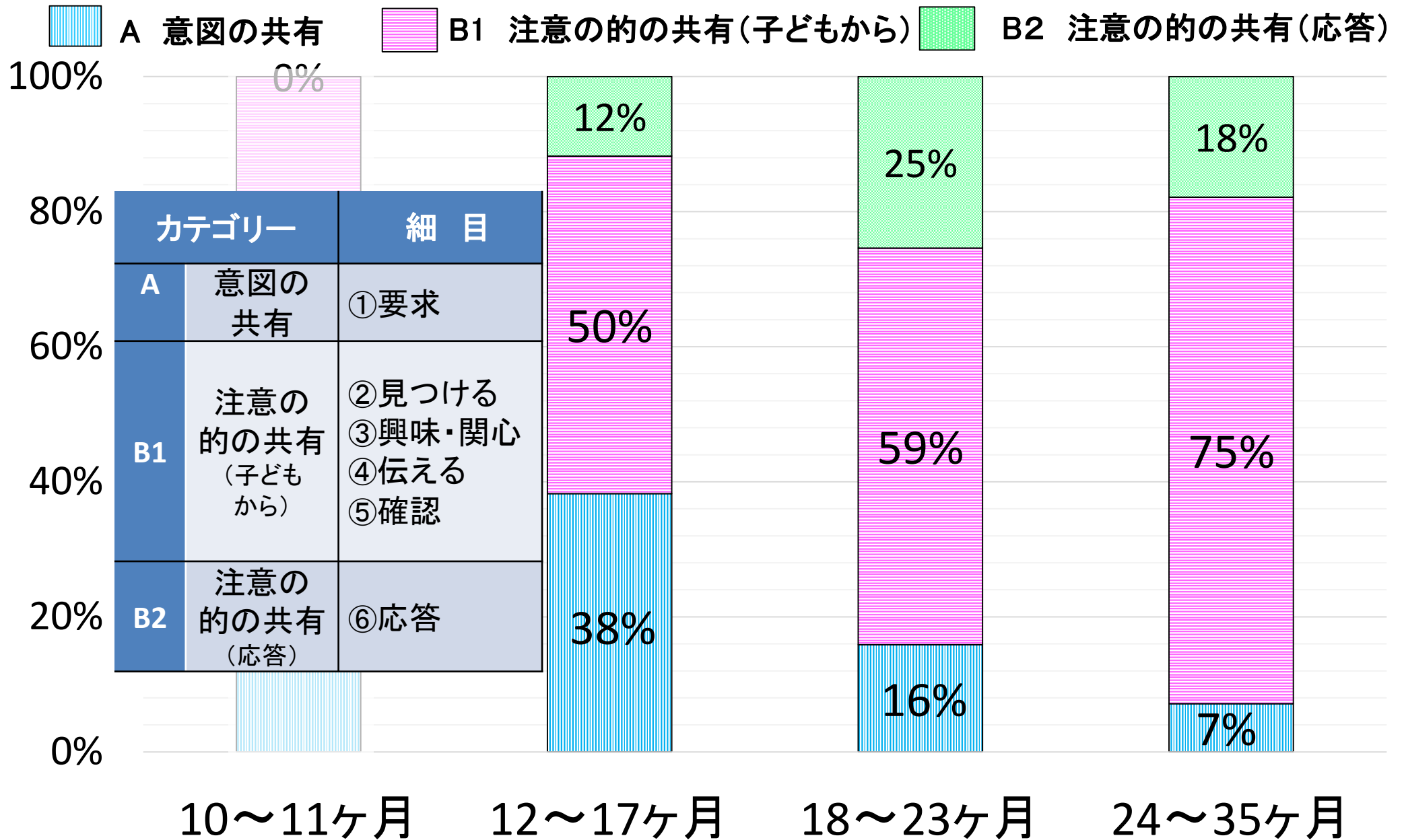


図3 何のために指さしをしたのか



4 指さしにおける発話

カテゴリ一別全体の中での変化(カッコ内は10~35ヶ月児のカテゴリ一別比率)

月齡	A意図の共有		B1注意の的の共有 (子どもから)		B2注意の的の共有 (応答)	
	発話なし	発話あり	発話なし	発話あり	発話なし	発話あり
10~11ヶ月	1名 (5%)	1名 (11%)	3名 (8%)	1名 (2%)	0名 (0%)	0名 (0%)
12~17ヶ月	11名 (55%)	2名 (22%)	8名 (21%)	9名 (15%)	1名 (10%)	3名 (15%)
18~23ヶ月	6名 (30%)	4名 (45%)	18名 (47%)	19名 (30%)	9名 (90%)	7名 (35%)
24~35ヶ月	2名 (10%)	2名 (22%)	9名 (24%)	33名 (53%)	0名 (0%)	10名 (50%)
合計	20名	9名	38名	62名	10名	20名

5 エピソードに見る

保育者の関わりと子どもの様子

(1) 意図の共有の指さしエピソード

B児 13ヶ月

対象物…モビール

普段の子どもの様子を丁寧に観察し、要求の表現を見逃さない。

子どもの心に寄り添い要求に応答的に関わる。



E児 12ヶ月 対象物…棚の玩具

だっこ！



これがほしかったんだね



おもちゃがほしい！



保育者は抱っこだと思っただが、子どもの様子から**本来の要求**にたどりついた。



このような経験の
繰り返しによって
基本的信頼感が
育まれていく



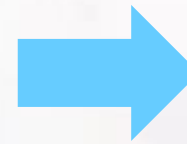
(2) 注意の的の共有(子どもから)のエピソード

F児 13ヶ月 対象物…天井の扇風機

あっちはくるくる
してないね

今日は
扇風機
回ってな
いね

くるくる
しよっか



普段の姿をよく観察してしてからこそ
本児の願いを叶えられ、
そこから見比べの発生を促した。

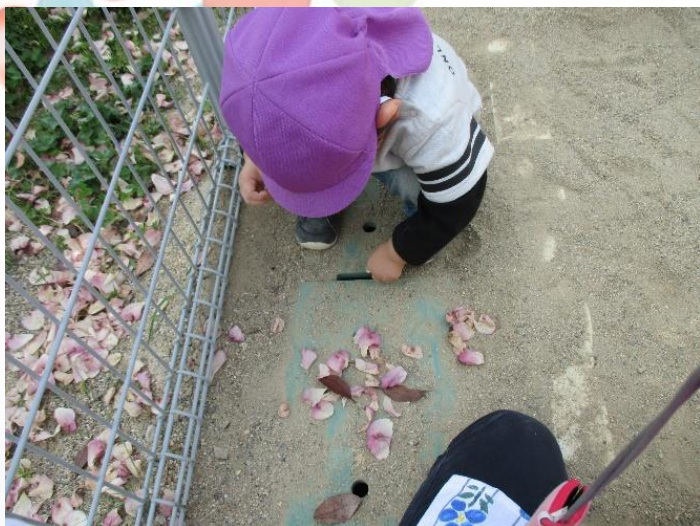
G児 24ヶ月 対象物…花びら



ピカピカ

花びらだね

**そうだね。
きれいだね。**



保育者の
適切な対応によって
資質や能力を
高めた

子どもが花びらを発見



遊びに繋げる

言語表現を導きだす



子どもに共感する

遊びが深まり
繰り返される

(3) 注意の的の共有(応答)のエピソード

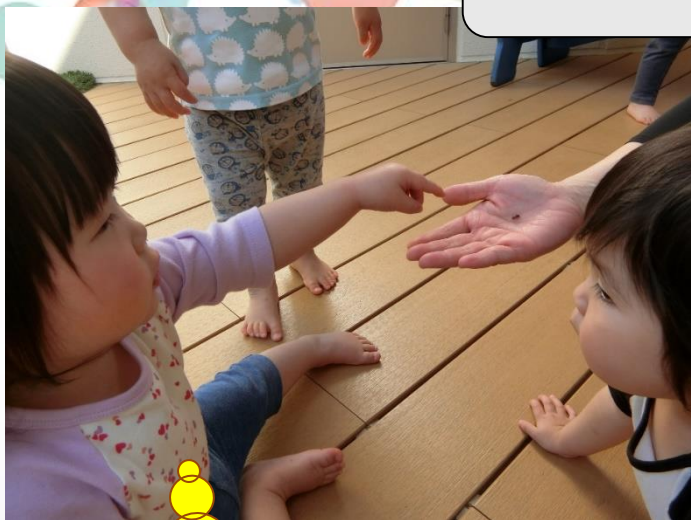
H児 18ヶ月 対象物…ダンゴムシ



大丈夫！
怖くないよ！



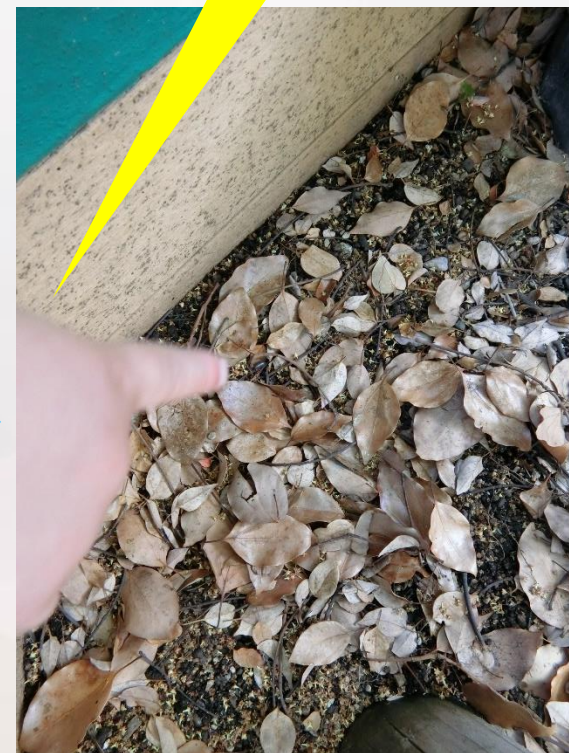
保育者と見たり触れたりする



むち!

さわっても
大丈夫なんだ。
さわってみたい。

安心感の育みが
好奇心・探求心を
高めた



(4) 幼児が1歳児の指さしの意図をくみ取り保育者に伝えたエピソード

J児 23ヶ月 対象物…カエルの置物

お花ちがうで



お花きれいね

カエルさんが
おったんか



グアー
グアー



保育者が**思い込みをせず、**
子どもの**意図や発見を**
正しく認識して応答することの
重要性を表している

幼児期になると他の子どもの意図をくみ取り、
知らせる力がついている。

V 総合的考察

自然物と触れ合う環境が大切

低月齢・・・室内の玩具や製作物を指さす傾向がある

1歳以降・・・園庭遊びや散歩中の指さしが増加

意図の共有を目的とした指さしも増加

自然物との触れ合いが子どもの育ちにとってふさわしい環境である。

言葉が出る前の要求表現に対する 応答的な関わりが基本的信頼感を育む

子どもの要求に対して保育者が応答的に関わる
→ 子どもの**心が安定した**

普段から丁寧に観察すること、心に寄り添うことで
言葉が出る前の子どもの要求表現に適切に対応できる

日々のやり取りを通して
基本的信頼感が育まれていく。

指さしは発達のチャンス

子どもの気づきや発見に応答的に関わり、共感し、一緒に遊びを楽しむことで

- ・資質や能力が高まる
- ・好奇心・探求心が高まる
- ・子ども同士の指さしと会話に繋がる など

自分の思いを正しく受けとめてもらい、
応答してもらえることが**喜び**となり、
豊かな表現や遊びに繋がる。

保育者の情緒的応答性が大切

保育者が拾わなければならないものは、子どもの**情緒**
子どもに寄り添い**気持ちを汲み取ろうとする姿勢**が大切

子どもの**興味関心**に沿って**応答的な関わり**
を大切にすることで、**愛着と自我の育ちが、**
自ら何かに関わろうとする力の育ちに
繋がっていく。

VI まとめ

言葉が出る前の会話のツールである指さし・手さし

日常生活の中で、手さしや指さしに気づき、応答することが大切である。

*** 保育者の存在 ***

子どもの発見や感動に
共感し、一緒に見つめ
たり触れたりする

子どもの
心の発達と学びに
大変重要である



ご清聴ありがとうございました。

